

# 報告

## 滋賀における天文普及活動

### 1. 滋賀天文の集い

滋賀は昭和初期の山本一清以来の長い天文普及の伝統を持ち、熱心なファンも多い。1987年に全国の公開天文台に先駆けて、多賀町にダイニックアストロパーク天究館(60cm反射鏡設置)ができて、アマチュア天文家はそこに集い合うようになった。

10年前から標記のような会を持ち、お互いの平素の活動を報告し合い、晴れたら観望会を開くことにしている(表1)。1998年までは専らダイニックアストロパーク天究館を会場としていたが、翌年からは滋賀県の各地を巡ることにしている。今年(2004年)は11月14日に、忍者の里、甲賀で開かれた(図1)。新たに「かふか生涯学習館」ができて、そこに25cmの屈折望遠鏡が設置されたのを記念しての開催である。「かふか」といっても、あの難解なドイツの文学者とは何の関係もない。古来、甲賀は「鹿深の里」と呼ばれていたようだ。

表1 10年間の開催日と会場

	日付	会場
1	1994/05/22	多賀町：天究館
2	1994/11/06	多賀町：天究館
3	1995/05/21	多賀町：天究館
4	1995/11/05	多賀町：天究館
5	1996/05/26	多賀町：天究館
6	1996/11/17	多賀町：天究館
7	1997/08/02	多賀町：天究館
8	1998/11/08	多賀町：天究館
9	1999/08/22	大津市生涯学習センター
10	2000/09/17	志賀町：比良げんき村
11	2001/11/11	水口町：JA会館
12	2002/11/23	八日市市：河辺いきものの森
13	2003/11/08	多賀町：あけぼのパーク多賀
14	2004/11/14	甲賀市：かふか生涯学習館

作花 一志(京都情報大学院大学)

当日の発表は

井田三良「ペルセウス流星雨による月面発光」

「掩蔽のネットワーク観測」

高橋進「ミラキャンペーン」

若林毅「天究館星の会の活動」

安達誠「2005年の火星観測」

作花一志「かに星雲生誕950年祭のお知らせ」

藪保男「近況報告」

その他ポスターセッション。

このうち最初の発表は井田氏と安達氏が共同で今年8月12日に、天究館60cm鏡+ビデオで月面発光を捉えた報告である。約50年前、藪氏はその可能性を指摘していたが、今年やっと観測が成功したわけだ。

出席者は30数名、その中には奈良県や三重県からの参加者もあり、来年は近畿だけでなく中部からの参加も歓迎する。

どこの天文同好会でも同じ悩みと思われるが、若者が少なく「むかし天文少年の会」になってしまいそうだ。しかし、若手も徐々に育っている。なお、会の企画運営は初回からすべて宇多清夫氏(図1 写真右端)の献身的な努力によるものである。



図1 第14回滋賀天文の集い

## 2. かに星雲を見よう会

かに星雲超新星出現 950 年を期して 2004 年 12 月 11 日 (土) 14:00 よりダイニクアストロパーク天究館で標記のようなイベントを行った(図 2)。

7 月の天究館友の会の例会の NightSession で提案し、9 月より準備してきた。かに星雲が見える新月近くの土曜として開催日はすぐに決った。しかし対象をどこに絞るか、広報をどのようにするかはイベント開催にはいつも大きな悩みの種である。「かに星雲」といっても一般には無名の存在であり、また誤解を招きやすい天体名である。当初は藤原定家研究も含めたシンポジウムなども考えてみたが、この星雲を実際に見てもらふことを主にして、超新星の解説を加えることにした。しかし天気が悪くて見えなかったら・・・その時は土星かすばるで何とかしようとひそかに考えていた。

参加者は小学生から熟年者まで約 30 名で、滋賀県だけでなく京都・大阪・奈良からの来場もあった。高校生・大学生の参加がないのはいつものことながらさびしい。本研究会近畿支部支部長の有本氏の司会で始まり「950 歳のかに星雲——華麗にして壮絶なる星々の終末」という筆者の講演では、「天文教育」2004 年 11 月号の特集記事を十分活用させていただいた。「明月記」の古記録や超新星の爆発メカニズムよりも、「かに」の由来であるロスのスケッチ (1844) のほうが興味を引いたようだった。プレゼンテーションはどんどんビジュアル度を増していき、今後はムービーも必要だ。「ブラックホールは、はくちょう座のほかにいくつあるのですか?」という小学生からの率直な質問には緊張した。次いで来年の火星観測(安達誠)、変光星ミラ(高橋進)、流星雨月面発光(井田三良)、Subaru 望遠鏡(島尚徳)、彗星作り(斉藤祥行)、超新星(作花一志)などのポスターセッションは天究館

友の会のメンバーや本研究会会員のご協力によるものである。さらに小学生向けのイベントとして「星座絵工作」、「星座絵年賀状」、「天文クイズ」などが行われ、会場にはオリジナル midi である「かにソング」の BGM が流れていた。

夜の観望会は幸いに晴天に恵まれほっとした。60cm 反射鏡の他に、屋上ベランダに 20cm~30cm クラスの反射鏡・屈折鏡・双眼鏡を設置し、約 50 名の参加者は、かに星雲、土星、すばる、アンドロメダ銀河、マックホルツ彗星などを寒い中 21 時半まで眺めていた。実は筆者もかに星雲を眼視で眺めたのは久しぶりだった。

まずまず無事に終了してほっとしたが、慰労会では、次の企画(?)に向けて高橋氏や安達氏たちと深夜まで語りあった。

最後にご協力・ご支援を頂いた多賀町教育委員会、彦根市教育委員会、天文教育普及研究会近畿支部、東亜天文学会、コニカミノルタプラネタリウム株式会社、株式会社アストローツ、京都新聞社、株式会社オーム社の各位、および多数のボランティア参加の方々に厚くお礼申し上げます。



図 2 かに星雲を見よう会